はじめに

ゼネラルマネージャー　狗飼小花
（行政政策学類 4 年）

東日本大震災から 7 年が経過しました。今年度も沢山の方の支えがあり活動することができましたことを、この場をお借りして感謝申し上げます。

2017 年 3 月 31 日付で浪江町・川俣町・飯舘村居住制限区域と避難指示解除準備区域が解除され、4 月 1 日富岡町居住制限区域と避難指示解除準備区域が解除されました。私たちがこれまで関わってきた方々も、仮設住宅から復興公営住宅に移られた方、新たな地での生活を決めた方、ふるさとに帰られた方など実に様々な環境での生活を送られています。

今年度の活動は、このように分散したニーズに対応してゆく必要があり、「人」の「生活」に「連続的」に、先を見通して「地味に強く」、「生活の場所・場面」で「心の動機」にふれ、進んでいくことを念頭に置いたものとなりました。

これまで基盤となっていた復興公営住宅・仮設住宅住居者の生活支援活動及びコミュニティづくりにおいては、「福茶サロン」と称した活動のバリエーションの展開が見られました。また、入居が本格化した復興公営住宅においては、他団体との協力により、サロン活動や季節の活動の展開が活発化しました。新たなコミュニティのお手伝いができたのではないかと感じています。来年度もさらに力を入れていく活動となります。

一方で、仮設住宅の大部分は、2018 年 3 月末で閉鎖、集約されることになりました。「いるだけ支援」を実施してきた 2 カ所の仮設住宅も集約される運びとなり、いるだけ支援としても一区切りとなります。これまでできた住民の方との繋がりをまた新たな形で大切にしていきたいと考えます。集約先の仮設住宅に居住される方もおります。その方々への見守りも継続していきます。

さらに今年度は、避難指示解除地域での生活復興支援活動及びコミュニティづくりの基盤を築いた年となりました。南相馬市小高区でのフリースペースの実施や、飯舘村での活動、浪江町での健康体操の実施など・・・これまで関わってきた方々のふるさとでの活動は今後更に本格化していきたいと思います。

この他にも本当に様々な活動を幅広く展開してきました。この 7 年で私たちは、ニーズの変化に応じた活動を行ってきましたが、その根底にあるものは変わらないと思います。それは「活動の向こう側を忘れない」と言うことです。この活動は何の為にあるのか、どんな想いがあるのか、常に考える必要があると感じています。

来年度入学する学生は、震災当時小学 5 年生です。時間の経過によって必然的に、当時の様子や現在の様子など、記憶や意識は薄れていきます。その中で、変わりゆく福島の「今」を、自分で見て、感じて、そして自分の言葉で伝えられるようになってほしいという願いがあります。

今後も、私たちの活動の背景や本質を忘れず、変わりゆくニーズに柔軟に、学生だからこそできることを続けていきたいと思います。

最後になりますが、私たちと一緒に活動、または私たちに対しご支援を頂きました各大学大学生、大学関係者の皆様、各種団体様、活動の広報をあらゆる面でしてくださったメディアの皆様、災ボラの活動協力に加え、報告書作成にあたりご協力いただきました皆様、この場をお借りして、心から御礼申し上げます。

来年度もこれまでと変わらず、一人ひとりに寄り添った活動を展開していきたいと思います。今後とも、(学生団体)災害ボランティアセンターをよろしくお願い致します。

目次

はじめに

1. 福島大学災害ボランティアセンターの各事業

①津波・地震被災地での復興支援活動

1-1. 南相馬市ボランティア活動センターを通したニーズ対応活動

1-2. 新地町ビーチクリーニング

②避難指示解除地域での生活復興支援活動およびコミュニティづくり

2-1. 南相馬市小高区児童・生徒の長期休み期間のニーズ対応活動

＊小高フリースペース

2-2. 浪江町、飯舘村でのボランティアの検討と提案

＊浪江町、飯舘村でのボランティアの検討と提案

＊飯館村福祉施設でのレクリエーション活動や職員サポート

＊飯舘村の子ども交流、世代間交流等

飯舘村の道の駅

2-3. 大熊町、双葉町、富岡町での実況見分

2-4. 双葉 8 町村支援やイベントの要請対応

③復興公営住宅・仮設住宅(みなし仮設含む)居住者の生活支援活動及びコミュニティづくり

3-1. 高齢者等の訪問活動「井戸端訪問」

3-2. 交流スペースを使った住民交流・コミュニケーション支援活動

＊手作業や足湯などを活用したミニサロン

＊学生サークルや県外支援者等をつなげたレクリエーション

3-3. 住民との季節親睦活動

3-4. 各地避難者自治会と地元自治会・地元組織との交流促進活動への協力

3-5. 他大学・団体活動の現地調整活動

④仮設住宅拠点化生活支援活動

4-1.「いるだけ支援」の実施。

⑤帰還地域でのむらづくり活動

5-1. 学生 DASH 村

⑥健康づくり活動

6-1. 高齢者サポート拠点での健康づくり・介護予防サポート活動

＊飯舘村「あづまっぺ」での交流サロン
6-2．エクササイズプログラム「JOYBEAT」を活用した体と頭の健康体操の実施

⑦福島の風評被害軽減・産業振興サポート活動
7-1．東京等県外での物販、ふくしま発信活動
＊前橋芋煮会

⑧次世代育成学びのサポート活動
8-1．大分県雄城台高校の修学旅行受け入れ
8-2．小中学校からの要請対応

⑨福島の子どもたちの健全な交友づくりのサポート活動
9-1.「第 5 回集まれ！ふくしま子ども大使」

⑩福島元気発信活動
10-1.「天満音楽祭」

⑪子供の発達・遊び支援
11-1．各種要請対応

⑫子供の力支援
12-1.「第 3 回ふくしまネイチャリングキャンプ」

⑬災害に関する他団体・企業との共同活動
13-1.「関西浜通り交流会」からの要請活動
13-2.「アサヒホールディング」のサロン活動
13-3.「目に見える支援プロジェクト」の炊き出し活動
13-4.「味の素」との料理教室

⑭災害に関する各種調査活動での協力

⑮災害援助及びその活動に関する情報提供、啓発活動、報告活動
15-1．各種研修会・講演会での発表

⑯災害復興のイベント企画または協力
＊「手作りまるしぇ」など企画イベントへの協力

⑰福島大学が行う災害に関する各事業への協力

⑱その他被災地・被災者のニーズに対応した活動や、センタースタッフ、登録者からの自発的提唱活動

⑲大学内外のボランティア登録者の呼びかけと登録者のフォローアップ
19-1. サークルオリエンテーションへの参加および新歓オリテの実施
19-2. 新登録者向けの「災ボラステップアップツアー」の実施
19-3. 福大 5 団体フェス
19-4. 5 団体ウィークの開催
19-5. ボランティア保険申請の取次、とりまとめ

⑳広報活動
20-1. ホームページの運営管理
20-2. Facebook、Twitter、インスタグラムを活用した情報発信
20-3. 学内災ボラ掲示コーナーの充実
20-4. 報告書・活動記録 DVD の作成

2. これまでの活動一覧

3. メディア掲載履歴

4. 寄付金一覧

おわりに

1. 福島大学災害ボランティアセンターの各事業

①津波・地震被災地での復興支援活動

1-1. 南相馬市ボランティア活動センターを通したニーズ対応活動

【概要】

福島県南相馬市小高区は東日本大震災によって、津波被害や建物等の倒壊似寄る被害の他に、福島第一原発事故によって、小高区全域と原町区の一部が避難指示区域に指定され、避難を余儀なくされた。2016 年 7 月 12 日に帰還困難区域を除く、小高区全域と原町区の一部に避難指示解除が行われている。

この南相馬市小高区復興ボランティアは、住民の皆さんが帰還し生活できるような環境を整えることを目的として行っている。福島大学災害ボランティアセンターでは 2013 年より、NPO 法人災害ボランティアネットが運営している「南相馬市ボランティア活動センター」にコーディネートをしていただく形で、南相馬市ボランティア活動センターに寄せられた様々なニーズに対して少しでも力になりたいとの思いで、福島大学からの参加者を募り現地で活動を行ってきた。

【連携・協力】

NPO 法人災害復興支援ボランティアネットが運営している『南相馬市ボランティア活動センター』

【活動場所】

南相馬市小高区

【活動日時・活動人数】

4 月 30 日(日)：8 名
5 月 21 日(日)：4 名
8 月 26 日(土)：4 名
9 月 30 日(土)：4 名
12 月 28 日(木)：4 名

【活動内容】

民家の小屋の整理や、放棄地となった場所の草刈り、竹の伐採

【参加者の声】

〇俵山 萌（行政政策学類２年）

今回このボランティアに参加したのは、地域に貢献したかったからです。当日の活動は

細かい指示が出されるわけではなく、自ら課題を見つけ取り組むといった積極性が必要となっていました。ボランティアでは周りをよく見て行動することが大切だと思いました。作業は力仕事があり、決して簡単なものではありませんでしたが、とてもやりがいを感じました。地域住民の方からお話を伺い、復興の大変さを改めて感じました。私は地域住民に寄り添って、これからもボランティア活動を続けていきたいです。

〇齋藤 奈々（行政政策学類２年）

私は出身県の被災地には訪れたことがあったのですが、福島の被災地には行ったことがなったため、今回のボランティアに参加しました。休憩時間には、被災地住民の方と直接話すことができたのが、個人的に良かったです。被災地の方が今何を感じていて、何を伝えたいのか、直接行って話を聞かなければわからないことがあると思いました。福島で作られた美味しいキュウリが、「福島で作られた」ことによって、売れない、避けられる現実。未だに、福島に対して誤った認識をしている人は私の身近にもいます。それは、福島の大学に通っているものとして、とても悲しいです。確かな知識を身につけ、真実を広めていけるようになりたいと感じました。

【活動写真】

1-2. 新地町ビーチクリーニング

【概要】

この活動は、福島県の浜通りの最北端である新地町を拠点としていて、H23 年 3 月 11 日の東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた沿岸部の景観活動の一環として、H27 年度から当団体として参加している。現地の統括団体である新地町ビーチクリーン隊の方や、県内外のボランティアの方と一緒に海岸清掃を行い、震災前の美しい海岸を目指して活動している。震災直後はガレキの撤去や、津波で流失された家財道具の整理などを中心に行ってきた。私たちが初めて参加した一昨年の活動でも、そういった作業を任されることが多かった。しかし、震災から７年が経過した現在は、砂浜に打ち上げられる漂流物やゴミを拾う作業がメインとなり、釣師浜海岸も少しずつ元の様子に近づいてきていると実感している。こういった震災の流れというものを、学生に感じてもらい、津波被災地の現状の把握につなげてほしいと考えている。

【主催】

新地町ビーチクリーン隊

【活動場所】

福島県新地町釣師浜海岸

【活動日時、活動人数】

6 月 25 日(日)：2 名

3 月 25 日(日)：2 名※

※に開催された活動は、新地町ビーチクリーン隊の活動ではなく、新地町の釣師浜防災緑地で行われた植樹祭に運営補助として参加した。護岸工事も着実に進む中、今回の植樹祭は防災緑地の整備としてだけでなく、住民の方との交流、または防災意識の醸成につながる取り組みになった。

【参加者の声】

〇福田 光(行政政策学類１年)

今回の活動では人生初の植樹をしました。現地では運営の補助や参加者への声掛けを積極的に出来たと思います。震災から時間が経っても、被災地に実際に足を運ぶことで、当時の記憶を思い起こせます。私もまた今回の活動を通して、被災した方とお話しをし、復興のために自分に出来ることを頑張ろうと改めて思いました。

【活動写真】

PANCIT
PANCIT

②避難指示解除地域での生活復興支援活動およびコミュニティづくり

2-1. 南相馬市小高区児童・生徒の長期休み期間のニーズ対応活動(フリースペース)

【概要】

震災から７年を迎え、小高区も避難指示解除となった。小高区に戻った子どもたちも少なからずいる。昨年度まで鹿島区で実施していた活動を小高でも実施しようとの思いが強く、今回も実施に至った。趣旨としては、長期休業期間だけでも子どもたちが集まって自由に過ごせる場所としてフリースペースの場を設け、大学生との関わりを通して子どもたちの心身のリフレッシュ、勉強に対する意欲の向上になればと思い小高区小中学校児童生徒親の会が企画したイベントである。(学生団体)福島大学災害ボランティアセンターも企画のサポートを行い、今年の冬の開催で 12 回目を迎えた。

【共催】

小高区小・中学校児童生徒親の会

【活動場所】

南相馬市小高区浮舟文化会館
南相馬市立小高小学校(夏のみ)
南相馬市小高区保健センター(冬のみ)

【活動期間】

夏季休業　8 月 1 日(火)～8 月 10 日(木)　　計 10 日間
冬季休業　12 月 23 日(土)～12 月 27 日(水)　　計 5 日間

【活動人数】

夏季　福島大学 6 名、明治大学 24 名、埼玉医科大学１名、白百合女子大１名、専門学校・大学院生・社会人など 18 名　　計 50 名
冬季　福島大学 11 名、明治大学 15 名、埼玉医科大学１名、白百合女子大１名、専門学校・大学院生・社会人など 17 名　　計 45 名

【活動内容】

子どもたちの学習・遊び支援
大学生の企画によるプログラム
　夏季　ペットボトルロケットの発射実験と試験管を使ってアイスを作る実験教室(7 日、10 日)、バーベキュー(10 日)
　冬季　クリスマス会(24 日、26 日)
　　豚汁とマフィンのお料理教室(25 日)

餅つき(27 日)

【参加者の声】

〇韓命奎(明治大学２年)

今回の活動は、四回目の参加になります。今回は、色んな想いを伝えたかったです。繋げてもらってきたものの以上のものを返していきたい、東京に戻ってから私たちが多くの方々から集めてきた気持ちを子供たちに届けたい、自分ができることをしていきたい、という想いです。

11 月の明治大学の学祭では、自分が属している明治大学ボランティアサークル LINKs メンバーみんなが、今回の冬のフリースペース活動のために、模擬店と展示のブースを開き、大勢の方々から福島への気持ちを集めてくれました。また、11 月からは、サークルの後輩と 12 回のチャリティライブを行いました。福島で感じた事を東京でも発信していき、東京で集めた気持ちをまた福島に届けていくという懸け橋の役割を果たしたかったです。学生でありながら微力ながらも自分ができることをしていきたいと思いました。南相馬市に足を運ぶ前には、本当に多くの関東の方々から福島の子供たちへの気持ちがたくさん集まりました。

12 月 26 日、クリスマス会の次の日、チャリティライブの最終版である音楽教室を開き、子供たちと保護者さん、社会人、大学生の方が一緒に音楽を楽しむことが出来ました。
そして、音楽教室が終わってからは、今まで関東で集めてきた気持ちをクリスマスプレゼントに変え、子供たちに届けました。その気持ちを伝えるために紆余曲折もたくさんありましたが、最後まで、児童生徒の親の会の方や福島大学の方、LINKs メンバー全員が助けてくれたおかげで、音楽教室とプレゼント渡しまで無事に終わらせることができました。何より、子供たちの喜んでいる姿が見られてとても良かったです。そこから、今まで頑張ってきて良かったと安心しました。一番印象的だった保護者さんの言葉もありました。「いつも自分の子供には、みんなが来てくれることとプレゼントをくれることは当たり前のことじゃないことで、感謝の気持ちを持つこととそれを伝えることは本当に大事なことですよと話しています」。その言葉から感謝の気持ちを持つこととそれを伝えることの大切さをもう一度認識しました。

そして、社会人の方から「ずっと応援してたよ。どんなことをしてきた？」と聞いてくれて今までの活動の話もしました。また、南相馬市の方から「南相馬のために、こんなことまでしてくれて本当にありがとう。」という言葉や、大学生になった南相馬出身の子から「ずっと見てましたよ。震災があってから 6 年も経ってみんなから忘れられているんですけど、本当に嬉しかったです。ありがとうございます。」という言葉ももらいました。微力ながら、少しでも自分の想いが届けられたようで良かったと思いました。

そして、今回の活動は「実家に戻ってきた～」という気持ちもありました。自分が生まれたところでも、育ててもらったところでもないのですが、この活動には会いたい人がた

くさんいます。その人々にまた出会えたことと、久しぶりの参加からの懐かしい気持ち、子供の心の成長を感じたときの嬉しい気持ちなどがあって、フリースペースという場所が心の居場所のようなものになっているのかもしれません。

　まだまだ自分ができることは本当に少なくて、これからも思い通りにいかないことも、迷惑をかけてしまうこともたくさんあると思いますが、これからももらってきたものの以上のものを返していけるように頑張りたいと思います。

【活動写真】

2-2. 浪江町、飯舘村でのボランティアの検討と提案（飯舘村道の駅オープンイベント）

【概要】

飯舘村は 2017 年 3 月 31 日付けで一部を除いて避難指示が解除された。これに伴い、2017 年 8 月 20 日に帰還後の人々の交流の拠点として飯舘村道の駅までい館がオープンした。当日は、これまで飯舘村と関わりのある福島大学大黒ゼミや千葉ゼミの学生とともにイベントを盛り上げるべく活動を行った。(学生団体)福島大学災害ボランティアセンターではこれまで仮設住宅等で住民の方と交流してきた。この活動は、帰還地域での活動の一歩となるものである。

【連携・協力】

飯舘村、福島大学ジャグリングサークル

【活動場所】

飯舘村道の駅までい館

【活動日時、活動人数】

8 月 20 日(月)：4 名

【活動内容】

イベントのブース運営(綿あめ・かき氷の振る舞い、子ども遊びなど)

【参加者の声】

○狗飼 小花(行政政策学類 4 年)

飯舘村は、震災前から訪れていた場所であり、避難後の閑散とした町並みを見た時に寂しさを覚えた。今回のイベントで道の駅には村内外から沢山の方が訪れ、賑わいが戻ってきたように感じた。特に帰還された方が「こんなに沢山の人が集まるのはほんとに嬉しいなあ。」と言っていたのが印象的だった。この活動をきっかけに飯舘村での活動が広がっていってほしいと感じた。

【活動写真】

③復興公営住宅・仮設住宅（みなし仮設含む）居住者の生活支援活動及びコミュニティづくり

3-2. 交流スペースを使った住民交流・コミュニケーション支援活動（福茶サロン）

【概要】

震災以降継続して行ってきた足湯活動に加え、カラオケや季節の折り紙など住民の方に楽しんでもらえるようなサロン活動を前年に引き続き行った。主に仮設住宅、復興公営住宅を中心に活動を行った。

仮設住宅の閉鎖に伴い、今年度からは復興公営住宅中心の活動が主になると考えられる。仮設住宅での活動を生かして、公営住宅でも住民の方のニーズに合った活動をしていきたい。

【協力】

浪江町社会福祉協議会、特定非営利活動法人「みんぷく」

【活動日時、活動場所、活動人数】

4 月 8 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：5 名
4 月 29 日(土)：石神第一仮設住宅：4 名
5 月 6 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：3 名
5 月 11 日(木)：ふくしま絆サロン富岡：2 名
5 月 14 日(日)：北幹線第一仮設住宅、森合町仮設住宅：4 名
5 月 17 日(水)：南矢野目仮設住宅：3 名
5 月 28 日(日)：旧松川小学校跡仮設住宅：3 名
6 月 3 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：5 名
6 月 10 日(土)：復興公営住宅吹上団地：4 名
6 月 11 日(日)：旧松川小学校跡仮設住宅：6 名
6 月 13 日(火)：ふくしま絆サロン富岡：3 名
6 月 14 日(水)：上野台仮設住宅：3 名
7 月 8 日(土)：北幹線第一仮設住宅：3 名
7 月 15 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：3 名
8 月 10 日(木)：北幹線第二仮設住宅：2 名
8 月 27 日(日)：旧松川小学校跡仮設住宅：4 名
9 月 10 日(日)：復興公営住宅吹上団地：4 名
9 月 12 日(火)：北幹線第二仮設住宅：3 名
9 月 14 日(木)：ふくしま絆サロン富岡：3 名
9 月 24 日(日)：旧松川小学校跡仮設住宅：4 名
10 月 14 日(土)：旧松川小学校跡仮設住宅：3 名

11 月 18 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：4 名
11 月 25 日(土)：復興公営住宅吹上団地：4 名
11 月 26 日(日)：旧松川小学校跡仮設住宅：4 名
12 月 9 日(土)：ふくしま絆サロン富岡：3 名
1 月 27 日(土)：復興公営住宅吹上団地：6 名
1 月 28 日(日)：旧松川小学校跡仮設住宅：3 名
2 月 3 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：1 名
2 月 17 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：2 名
2 月 24 日(土)：ふくしま絆サロン富岡：3 名
2 月 25 日(日)：旧松川小学校跡仮設住宅：3 名
3 月 4 日(日)：復興公営住宅吹上団地：5 名
3 月 25 日(日)：旧松川小学校跡仮設住宅：4 名

【参加者の声】

〇青木 耀子（行政政策学類 2 年）

本当に楽しく活動できました。飯坂団地は今日初めて伺いましたが、とても温かくいい雰囲気の団地でまた行きたいと思いました。なんちゃってミニハンバーガーもホットドックのようで美味しく、住民の方にも好評でした。またこのような活動に参加したいです。住民の方々が主体となって様々な集会を企画しているのが印象的でした。12 月は飯坂の近場で 2 時間ほどの食事会を開く予定だそうです。

【活動写真】

3-3. 住民との季節親睦活動

【概要】

福島大学ボランティアセンターでは、季節の変化を感じ取れるような四季折々の活動を仮設住宅や復興公営住宅で行ってきた。今年度の復興公営住宅での季節の活動は、NPO の「みんぷく」と自治会が計画した活動に、お手伝いという形で福島大学災害ボランティアセンターが関わることが多かった。こういった季節の活動は参加する住民の人数も多く、普段なかなか顔を合わせることのできない住民同士の交流の場として機能している。

【活動内容】

春季　お花見
　　春を楽しむ会
夏季　夏祭り
　　BBQ
秋季　芋煮会
冬季　クリスマス会
　　望年会
　　新年会

【活動日時・活動場所・活動人数・活動内容】

春季

4 月 23 日(日)：復興公営住宅壁沢団地：4 名：お花見会

4 月 23 日(日)：旧松川小学校跡仮設住宅：7 名：お花見会、クイズ大会

4 月 29 日(土)：安達運動場仮設住宅：8 名：お花見会

5 月 5 日(金)：安達運動場仮設住宅：20 名：BBQ

5 月 10 日(水)：上野台仮設住宅：５名：春を楽しむ会(柏餅作り、折り紙、クラフトペーパー、足湯)

5 月 27 日(土)：富岡さくらサロン：６名：新緑会(焼きそば、焼き鳥、フランクフルト)

夏季

7 月 16 日(日)：復興公営住宅壁沢団地：5 名：夏祭り(運営補助)

7 月 23 日(日)：安達運動場仮設住宅：10 名：夏祭り

7 月 23 日(日)：旧松川小学校跡仮設住宅：5 名：BBQ、かき氷、ビンゴ大会

8 月 16 日(水)：復興公営住宅吹上団地：3 名：BBQ

8 月 23 日(土)：松川第一仮設住宅：7 名：夏祭り（流しそうめん）

秋季

10 月 7 日(土)：復興公営住宅北中央団地：5 名：入居 1 周年記念交流会(BBQ、ポップコーン)

10 月 9 日(月)：復興公営住宅北沢又団地（松川湧水公園）：2 名：芋煮会(北沢又団地交流会)
10 月 14 日(土)：北幹線第一仮設住宅：5 名：芋煮会
10 月 15 日(日)：復興公営住宅石倉団地：4 名：芋煮会、カラオケ大会
10 月 15 日(日)：松川河川敷万里橋駐車場（山形、米沢）：4 名：芋煮会
10 月 21 日(土)：復興公営住宅笹谷団地：2 名：芋煮会、わたあめ
10 月 19 日(土)：安達運動場仮設住宅：8 名：芋煮会
11 月 11 日(土)：復興公営住宅北沢又団地：7 名：芋煮会、おにぎり、焼き鳥
11 月 19 日(日)：富岡さくらサロン：5 名：芋煮会、かるた大会
<u>冬季兼望年会</u>
12 月 3 日(日)：万里コミュニティセンター(米沢)：5 名：クリスマス会
12 月 9 日(土)：松川第一・松川第二仮設住宅：8 名：クリスマス会
12 月 10 日(日)：復興公営住宅守山駅西団地：3 名（熊本学園大から 4 名）：クリスマス会
12 月 16 日(土)：安達運動場仮設住宅：6 名：望年会
12 月 17 日(日)：旧松川小学校跡仮設住宅：7 名：望年会（餅つき、ビンゴ大会）
12 月 24 日(日)：北幹線第一仮設住宅：4 名：クリスマス会
12 月 25 日(月)：復興公営住宅北沢又団地：6 名：クリスマス会
12 月 27 日(水)：二本松福祉センター：2 名：クリスマス会
12 月 31 日(日)：北幹線第一仮設住宅：5 名：年越しそば会
1 月 13 日(土)：北幹線第一仮設住宅：6 名：もちつき会
1 月 14 日(日)：復興公営住宅飯坂団地：4 名：新年会(餅つき、福笑い)
1 月 17 日(水)：松川第一・松川第二仮設住宅（あづまっぺ）：６名：新年会（餅つき、かるた、ビンゴ）
1 月 21 日(日)：復興公営住宅守山駅西団地：3 名：新年会
2 月 7 日(水)：松川第一・松川第二仮設住宅（あづまっぺ）：3 名：バレンタイン大作戦（チョコの配布）

【参加者の声】
〇渡邉 美里（経済経営学類１年）
　私は北沢又団地での芋煮会に参加しました。芋煮会では、芋煮の他に焼き鳥やおにぎりを作り、住民の皆さんと一緒にいただきました。私は北沢又団地に初めてお邪魔したのですが、明るい住民の方々のおかげで楽しく活動することができました。また芋煮会のような季節のイベントを通して住民の皆さんが集まり、交流する場が大切であると感じました。今後も継続して活動に参加していきたいと思います。

【活動写真】

3-4. 避難者と地元組織との交流促進活動

【活動日時・活動場所・活動人数・活動場所】

9 月 17 日(日)：絆祭り（BBQ、焼きそば等)：4 名：復興公営住宅石倉団地

④仮設住宅拠点化生活支援活動

4-1.「いるだけ支援」の実施

【概要】

「いるだけ支援」とは、仮設住宅に居住しながら(近所付き合いをしながら)簡易な生活支援・声掛けをし、引きこもり防止に寄与する活動である。現在、仮設住宅から復興公営住宅、みなし仮設への転居、自力での住居再建、避難指示が解除された地域への帰還等により仮設住宅での空き家が増えている。仮設住宅に居住する人々は、もともと高齢者が多く、子ども・若者の声が消滅している日常があり、居住エリアの寂寞感が蔓延しているように感じるようになった。その中で、学生が仮設住宅に居住することで、見守りの目を増やし関連死・孤独死・自殺を防ぐとともに、仮設住宅を元気づけることが狙いである。また、北幹線第一仮設住宅、安達運動場仮設住宅を中心として近隣の仮設住宅や復興公営住宅へのアプローチも行っている。そして、住民が仮設住宅から別の環境に移られる中で、いるだけ支援のロッジングスタッフが中心となって、その後のコミュニティづくりにも寄与することを想起している。

【目的】

・各世代の対話場面や居場所をつなぎ「世代間交流」の亘りをつくる
・学生が生活の活力づくりに手を添えることによって、居住者本人が主人公、地域づくりの参画者となれるように居住者に働きかける
・孤独死を防ぐ。(身体的・精神的・社会的)健康増進に寄与し、介護予防・疾病予防、そして関連死を防ぐ
・学生が生活者の 1 人として、仮設住民と日常交流をすることで仮設住宅の静寂観を好転化させる
・仮設住民の生活のメリハリづくりを行う
・外部との人交流を促進させる
・簡易なニーズに応える

【活動場所】

北幹線第一応急仮設住宅、安達運動場応急仮設住宅(入居者は浪江町民)

【ロッジングスタッフ】

北幹線第一応急仮設住宅

第Ⅶ期：高橋航平(再々登板) 【4 月 23 日(日)~11 月 11 日(土)】
坂本奨【4 月 23 日(日)~11 月 11 日(土)】
第Ⅷ期：久保野谷雅人(再登板)【11 月 12 日(日)～3 月 31 日(土)】
工藤千陽【11 月 12 日(日)～4 月 9 日(火)】

※第Ⅸ期は、引き続き平成 30 年度に実施

安達運動場応急仮設住宅

第Ⅲ期：末永崇【3 月 9 日(木)～9 月 7 日(木)】
阿部早也香【3 月 9 日(木)～11 月 21 日(火)】
第Ⅳ期：斉藤亮太【9 月 8 日(金)～3 月 30 日(金)】
高坂夏美【11 月 22 日(火)～3 月 30 日(金)】

【イベントの活動日時、活動内容、活動人数】

※ロッジングスタッフからメーリングリストで参加募集をかけた活動

北幹線第一仮設住宅

10 月 14 日(土)：芋煮会：5(1)名＊
12 月 24 日(日)：クリスマス会：4(2)名＊
12 月 31 日(日)：年越しそば会：5(2)名＊
1 月 13 日(土)：もちつき会：6(2)名＊
2 月 22 日(木)：感謝祭：7(2)名

安達運動場仮設住宅

4 月 19 日(水)：ボウリング大会：5(2)名
4 月 29 日(土)：花見：8(2)名＊
5 月 5 日(金)：BBQ：20(2)名＊
5 月 20 日(土)：新緑お茶会：2(2)名
6 月 22 日(木)：弘前大学血圧検診：1(1)名
6 月 28 日(水)：ボウリング大会：6(2)名
7 月 21 日(金)：アサヒビール見学会：2(1)名
7 月 23 日(日)：夏祭り：10(2)名＊
9 月 12 日(火)：松島旅行：2(1)名
10 月 19 日(木)：芋煮会：8(2)名＊
12 月 16 日(土)：望年会：6(2)名＊
3 月 24 日(土)：お別れ会：10(2)名
3 月 29 日(土)：いるだけ支援引っ越し：7(2)名
3 月 30 日(金)：いるだけ支援引っ越し：10(2)名

＊は季節の活動と再掲
※()内はロッジングスタッフ

【ロッジングスタッフの声】

◯坂本 奨（行政政策学類 2 年・北幹線第一仮設住宅第Ⅶ期ロッジングスタッフ）

私は 2017 年 5 月から 10 月までの約 5 ヶ月間いるだけ支援を行いました。私が住んでいた時期は、仮設住宅から復興公営住宅や避難指示が解除された故郷への住み替えが盛んな時期でした。住民の方々とお話ししていても、「もうすぐ引っ越しするんだよね」ということをよく聞いていました。引越しの準備を進めている方々もよく見かけました。

いるだけ支援を行って、本当にたくさんの方とつながることができました。また、多くの人の優しさを感じることもできました。いつも私のことを気にかけてくれて、お話ししに行くと、いつも快く迎え入れていただきました。一緒にご飯を食べたり、プランターで野菜を育てたいと私が話すと土や肥料をくれたり、水やりをしてくれたり、夏には仮設住宅から見える花火をみんなで見たりと、本当にたくさんの思い出をいただきました。ぜひ今後もこのいるだけ支援でできたつながりを大切にしていきたいなと思います。

○工藤 千陽(行政政策学類 2 年・北幹線第一運動場仮設住宅第Ⅷ期ロッジングスタッフ)

始めはいるだけ支援として何をすればいいのか不安がありました。でも、はじめの挨拶回りの時に皆さんに笑顔で受け入れていただいて少し気持ちが軽くなりました。イベントを開催したり、お菓子を配ったり住民の方と多く接するうちに住民の方と持ちつ持たれつの関係を築くことができたように感じました。名前を覚えていただいたり、声をかけていただくのはとてもうれしかったです。ここで築いた関係をこれで終わらせるのではなく、これからも続けていきたいです。

○斉藤 亮太（経済経営学類 2 年・安達運動場仮設住宅第Ⅳ期ロッジングスタッフ）

私は 7 ヶ月間、仮設住宅で生活させていただきましたが、普段の活動では感じることができない経験ができました。朝の挨拶から、体操、お茶会、雪かきなど、住民の方と一緒になってすることによって、いつしかこれが当たり前の生活になっていきました。この当たり前を作ることが非常に重要であることも、いるだけ支援で感じ取ることができました。

仮設住宅が 3 月で終了するため、私たちが最後のロッジングスタッフになります。浪江町や復興公営住宅へ引越しする方の見送りには、正直寂しさが募りました。ですが、復興に向け進んでいることには間違いなく、最後の住民の方を見送った時には、いるだけ支援として一つの役割を果たせたのではないかと思いました。これからは帰還した先や引っ越した先での活動を広げていくことを考えています。

私が長い間ロッジングスタッフとして活動できたのは、いつも優しく、暖かくしてくれた住民の方々と、どんな時も一緒に頑張ってきた相方のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。

【活動写真】

⑤帰還地域でのむらづくり活動

5-1. 学生 DASH 村

【概要】

田村市都路地区では、「東日本大震災」の原発事故の影響を受け、避難を余儀なくされた。その後平成 26 年度 4 月に避難指示が解除され、地区への帰還が実現したが、平成 29 年度現在で約 80%の帰還率となっている。帰還後は人口の減少と相まって、地区の高齢化も進んでいる。その中で元気に暮らす高齢者とともに、コミュニティの賑わいだけでも取り戻したいとの声にこたえていくことを目的としている。ふるさとに戻り年を重ねた都路地区の人々と「80 になっても夢とロマンを」を掲げて、学生を介したコミュニティづくりを進めている。

【目的】

①田村市都路地区(岩井沢地区)の人賑わいづくりを創出する
- 福島大学学生の地域往来
- 都路地区外からの人の呼び込み
- 村づくりのための専門家の関与

②都路地区の方々との交流を深める
- 高齢者とともにした世代間交流

③都路地区の方々の主体的な暮らしへの一助
- 「80 になっても夢とロマンを」「いきがいづくり」

④都路地区をフィールドラーニングの拠点の一つに
- 学生にとってのフィールドラーニング
- 外部の人々にとってのフィールドラーニング(田村市のグリーンツーリズム)

⑤お世話いただく都路地区の方々に感謝する

【連携・協力】

- 田村市復興応援隊
- 一般社団法人ふくしま連携復興センター
- NPO 法人コースター田村市復興応援隊
- 都路地区岩井沢の住民の方々

【活動場所】

田村市都路町岩井沢地区(畑は渡辺仁一さんから、活動拠点は渡辺昭男さんから借用)

【活動内容】

- 畑、拠点の整備

・夏野菜(トマト・茄子・人参等 9 種)、秋～冬野菜(白菜・大根等 3 種)収穫
・都路ふれあいサロン
・都路灯まつり 運営手伝い
・都路大交流会(夏・冬)
・外部ミーティング

【活動日時、活動人数】

〈畑、拠点の整備〉

4 月 15 日(土)：3 名、4 月 22 日(土)：7 名、4 月 29 日(土)：7 名、5 月 6 日(土)：3 名、5 月 13 日(土)：6 名、5 月 20 日(土)：13 名、6 月 10 日(土)：5 名、6 月 17 日(土)：2 名、6 月 24 日(土)：2 名、7 月 1 日(土)：4 名、7 月 5 日(水)：3 名、7 月 8 日(土)：2 名、7 月 12 日(水)：3 名、7 月 15 日(土)：2 名、8 月 11 日(金)：3 名、8 月 18 日(金)：4 名、8 月 27 日(日)：9 名、8 月 28 日(月)：4 名、9 月 1 日(金)：3 名、9 月 4 日(月)：2 名、9 月 10 日(日)：3 名、9 月 13 日(水)：3 名、9 月 16 日(土)：4 名、9 月 19 日(火)：2 名、9 月 23 日(土)：6 名、9 月 27 日(水)：3 名、10 月 4 日(水)：3 名、10 月 7 日(土)：2 名、10 月 14 日(土)：4 名、10 月 18 日(水)：5 名、10 月 21 日(土)：4 名、10 月 23 日(火)：3 名、10 月 27 日(金)：3 名、11 月 1 日(水)：3 名、11 月 4 日(土)：4 名、11 月 8 日(水)：6 名、11 月 11 日(土)：1 名、11 月 12 日(日)：1 名、11 月 15 日(水)：3 名、11 月 17 日(金)：1 名、11 月 18 日(土)：4 名、11 月 22 日(水)：5 名、11 月 25 日(土)：5 名、11 月 29 日(水)：5 名、12 月 3 日(土)：3 名、12 月 5 日(火)：5 名、12 月 9 日(土)：5 名、12 月 13 日(水)：3 名、12 月 14 日(木)：3 名、12 月 15 日(金)：2 名、12 月 16 日(土)：2 名、12 月 20 日(水)：2 名、12 月 23 日(水)：5 名、12 月 27 日(水)：3 名、1 月 10 日(水)：4 名、1 月 13 日(土)：4 名、1 月 17 日(水)：3 名、1 月 19 日(金)：2 名、1 月 20 日(土)：2 名、1 月 24 日(水)：5 名、1 月 27 日(土)：4 名、2 月 16 日(金)：2 名、2 月 17 日(土)：4 名、2 月 21 日(水)：4 名、2 月 28 日(水)：4 名、3 月 4 日(日)：4 名、3 月 7 日(水)：2 名、3 月 10 日(土)：4 名、3 月 14 日(水)：4 名、3 月 17 日(土)：4 名、3 月 21 日(水)：4 名、3 月 31 日(土)：4 名

〈その他〉

都路灯まつり：8 月 5 日(土)：11 人、8 月 6 日(日)：2 名、
夏の収穫感謝祭：8 月 21 日(月)：4 名
バスツアー：9 月 24 日(日)：8 名
サロン：10 月 11 日(水)：4 名、3 月 28 日(水)：7 名
秋の収穫大感謝祭：10 月 15 日(日)：13 名
報告会：12 月 10 日(日)：5 名
交流会：3 月 24 日(土)：7 名

【参加者の声】

〇桑折 綾音(行政政策学類２年)

今年一年の活動は、一言で纏めるならばまさに「雨降って地固まる」の言葉につきると思います。前年度から活動を引継ぎ、農作業やサロン活動などへの参加を行ってきました。ですが、住民の方々のご厚意に頼りきりであったこと、理想とする計画と自分達が出来ることの限界という現実との差、慢心などが原因で、一時は活動が危ぶまれる事となった時期もありました。ですが、復興応援隊の方や、住民の方々のご厚意とご協力、活動の反省と外部ミーティング等の組織的な見直しを行い、以前よりも住民の方々とより深い信頼関係を築く事が出来たと感じています。 感謝の気持ちと、地に足ついた運営の大切さ。この二点を忘れず、今後も都路の方々と一緒に活動し、都路に人の輪を広げていければと思います。

【活動写真】

⑥健康づくり活動

6-2. エクササイズプログラム「JOYBEAT」を活用した体と頭の健康体操の実施

【概要】

2014 年より株式会社エクシングにご協力いただいて、仮設住宅にて「JOYBEAT」というカラオケ体操プログラムを行っている。「JOYBEAT」とはテレビに映した映像と流れる音楽に合わせて、椅子に座ったまま体を動かすという内容である。目的は運動不足の解消はもちろん引きこもりの防止や住民同士、住民と学生の交流の場としての役割をもっている。

この活動は住民の方々のサークル活動の一環として定着している仮設住宅もあり、そこに学生がお邪魔しているという形になっていて住民が主体性を持っており、一方的な支援とは違った形がとれている。

【協力】

・株式会社エクシング
・浪江町役場

【活動日時、活動場所、活動人数】

4 月 22 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：2 名
5 月 19 日(金)：恵向仮設住宅：1 名
5 月 30 日(火)：浪江町役場：1 名
6 月 2 日(金)：恵向仮設住宅：1 名
6 月 17 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：3 名
6 月 20 日(火)：浪江町役場：2 名
6 月 30 日(金)：恵向仮設住宅：2 名
7 月 1 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：3 名
7 月 7 日(金)：恵向仮設住宅：2 名
7 月 25 日(火)：浪江町役場：1 名
7 月 28 日(金)：恵向仮設住宅：1 名
8 月 5 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：1 名
8 月 25 日(金)：恵向仮設住宅：1 名
9 月 2 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：3 名
9 月 15 日(金)：恵向仮設住宅：1 名
10 月 7 日(土)復興公営住宅飯坂団地：3 名
10 月 13 日(金)：恵向仮設住宅：1 名
10 月 17 日(火)：浪江町役場：3 名
10 月 27 日(金)：恵向仮設住宅：1 名

11 月 4 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：1 名
11 月 24 日(金)：恵向仮設住宅：1 名
12 月 2 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：2 名
12 月 8 日(金)：恵向仮設住宅：1 名
1 月 20 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：1 名
2 月 9 日(金)：恵向仮設住宅：1 名
2 月 17 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：2 名
3 月 10 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：1 名
3 月 31 日(土)：復興公営住宅飯坂団地：2 名

【参加者の声】

〇佐々木 翔太郎（経済経営学類 3 年）

健康体操に参加して感じたことは、声を出しながら体操することで住民の皆さんと会話をしながら体操ができることということです。歌を歌いながら楽しく体操ができることが魅力なのではないかと思います。また、座って行うプログラムから立って行う激しいプログラムまで自分の好みのプログラムを選べるのもこの活動の一つの特徴だと思います。この活動を通して住民の皆さんと交流を楽しむことを忘れずに、これからも活動に参加していきたいと思います。

【活動写真】

Move Sport

⑦福島の風評被害軽減・産業振興サポート活動

7-1. 前橋芋煮会

【概要】

群馬県前橋市民の有志による団体「まえばし×ふくしま部」が主催する「前橋芋煮会 2017」に協力団体として参加した。活動の目的は、１．前橋市民同士、２．前橋市民と福島県民、福島県に縁のある者同士等、多彩な交流を図ること、３．福島の今を前橋市民に発信すること、4 交流によって福島に暮らす人々、福島を思いながら避難し暮らす人々の生活復興に資すること、５．福島の現状を伝え、福島の「元気」を発信すること、である。芋煮会の内容については投げ銭式による限定 300 食の福島風芋煮の振る舞い、福島県産の果物の販売（りんご、なし)、福島の物産販売などを行った。

【主催】

まえばし×ふくしま部

【活動日時、活動場所、活動人数】

11 月 3 日(金)：群馬県前橋市：6 名

【参加者の声】

〇工藤 千陽（行政政策学類 2 年）

私は今回初めてこの活動に参加した。私はこの活動に参加するにあたり震災から 6 年以上がたった中で、芋煮や特産物を通して群馬県の方に福島のことを知ってもらいたいという思いがあった。芋煮会当日はとても天気が良く、たくさんの人から声をかけていただいたり、足を止めてお話したりした。中には昨年も来てくださった方もいた。風評被害で福島県のものが売れるのか心配だったが、皆さん嬉しそうに買ってくださったのでとてもうれしかった。この活動で福島のことを群馬県の人に少しは伝えられたのではないかと思う。外部の団体の方とこのような活動をするのはとても貴重だと思うので来年度も続けていけたらいいと思う。

【活動写真】

陽光
カレー
1つ 540円
スープ
1つ 540円

⑧次世代育成学びのサポート活動

8-1. 大分県雄城台高校の修学旅行受け入れ

【概要】

大分県は昨年の熊本地震に続いて、今年は九州北部豪雨に見舞われた。こうした自然災害に直面してきたことで災害・防災に関する関心が高まっている。生徒の皆さんに福島を訪問してもらい、福島の今を感じてもらうことで今後の自分達の災害に関する知識に役立ててもらいたいという先生方の要望を受けて、迎え入れることとなった。また大学がどのような場であるのかを生徒の皆さんに知ってもらうことで自分の将来について考えてもらえればとの思いもあり、実施に至った。

【連携・協力】

スタ☆ふくプロジェクト（学生団体）
リプラボ（学生団体）

【対象】

大分県立雄城台高校２学年生徒

【活動場所】

福島大学内講義棟

【活動日時】

11 月 15 日（水）

【活動内容】

① 語り部さんによる被災体験講話
② 災害ボランティアセンターによる活動体験会（足湯・健康体操）
③ 福島大学で活動している団体による活動紹介（スタ☆ふくプロジェクト、リプラボ）

【参加高校生の声】（修学旅行研修日誌より抜粋）

・今までで一番東日本大震災を近くに感じることができた。
・被災された話を聞き、スライドを見て、私たちが知っていたことはほんの一部にすぎないことを知った。
・福島大学では、何気ない日々も幸せであふれているということ、3.11 を教訓としてほしいということ、震災はいつ起きてもおかしくないということを学んだ。（震災を）実際に体験した人の話は本当に胸が痛かった。どの学生団体も地域のために一生懸命活動していて、自分も福島で学んだことを生かして今後生活していこうと思った。

【参加者の声】

〇菅野 はる菜（人間発達文化学類２年）

県外の高校生の研修の機会を作るという活動は、災ボラが発足してから初めての取り組みでした。この活動に参加して感じたことは、若い世代に、震災をそして福島を「伝える」重要性です。私が事前に大分県立雄城台高校を訪れ高校生と話をした際、ニュースで見た東日本大震災や津波・原発事故について、「実際に被災した人の話を聞きたい」「ボランティアを体験したい」など学びたい意欲が高い高校生が多くいることを感じました。だからこそ、県外の高校生に私たち福島の大学生だからこそできる研修の機会を作れたら、と思

い試行錯誤しながら準備しました。当日は、高校生が真剣にそして積極的に学んでいる姿を見ることができ、私たちの伝えたい想いが確かに伝わっていることを感じました。また、災害ボランティアセンターだけではなく、「リプラボ」さんや「スタ☆ふく」さん等とも協力し、福島大学生の様々な取り組みも紹介することができました。今後もこのような機会があったら今回の活動を生かしていきたいと思います。

【活動写真】

⑨福島の子どもたちの健全な交友づくりのサポート活動

9-1.「第 5 回集まれ！ふくしま子ども大使」

【概要】

今年で 5 回目の開催となった。震災から 6 年が経ち、ストレスを感じる環境の中にいる子どもがたくさんいる一方、震災に対しての風化は進んでいると感じている。そこで、福島の子どもたちの健全な交友づくりをサポートするとともに、全国の子どもたちとの交流を図りながら、福島を含めた全国の子どもたちに福島の現状・良さ・楽しさだけではなく、全国の子どもたちの出身地についても伝え合うことが狙いである。この「集まれ！福島子ども大使」を通して、参加した子どもたちが福島のことを自分の場所から全国へと発信する福島子ども大使となることを強く願って開催されている。

また、この活動は、アサヒグループホールディングスと JTB 東北の方々にも協力をしていただいた産学共同プロジェクトである。

【協力・後援】

アサヒグループホールディングス、JTB 東北、福島県教育委員会、裏磐梯ロイヤルホテル、会津若松寺内の観光施設

【活動場所】

活動場所：福島県会津若松市内
宿泊施設：裏磐梯ロイヤルホテル

【活動期間】

8 月 17 日(木)～8 月 21 日(月)

【活動人数】

〈学生スタッフ〉
福島大学 12 名、鹿児島大学 2 名、関西大学 2 名、静岡大学 2 名、日本大学 1 名
立教大学 1 名、ノースアジア大学 1 名　計 21 名
〈参加者〉
福島 20 名、九州 3 名、近畿 3 名、関東 7 名、東北 1 名　計 34 名

【活動内容・行程】

○8 月 17 日(木)　1 日目
各地から移動
はじめましての集い（自己紹介、オリエンテーション）

〇8 月 18 日(金)　2 日目
　大熊町役場会津若松出張所にて震災当時と現在の大熊町の現状を聴講
　大内宿・鶴ヶ城観光、あかべこ絵付け体験
　夕食後、ホテル駐車場で花火

〇8 月 19 日(土)　3 日目
※当初の予定では雄国沼自然探訪チャレンジハイキングでしたが、悪天候のため変更した。
　野口英世記念館観光
　五色沼探索

〇8 月 20 日(日)　4 日目
　ナチュラルビズ提供デイキャンプ体験
　イワナつかみ取り、カレー作り
　水遊び
　学生企画ウォークラリー
　さよならの集い（スライドショー上映）

〇8 月 21 日(月)　5 日目
　各地へ移動、全日程終了

【参加小学生の感想】
≪参加者からの作文より≫
〇福島県　小学校 5 年生
　今回私が一番楽しかったのは、みんなで協力して何かを作ったり、目標を達成したことです。県内の人とも、県外から来てくれた人とも、たくさんおしゃべりしながら過ごしました。

〇鹿児島県　小学校 6 年生
　私が福島に行って良かったことは、いろんな県の人と交流して仲良くなれたことです。福島で体験したことを地元の友達に自慢したいです。

≪他大学生からの感想≫
〇株本 雅樹(鹿児島大学 1 年)
　今回、先輩の紹介で初めて子ども大使に参加しました。企画を通して、子どもたちと触れ合う楽しさを感じるとともに、福島の現状や震災当初の様子を知ることができました。プログラムを通して子どもたちと一緒に自分自身も成長できたと感じています。

○山崎 俊平(日本大学２年)

自分は秋田県出身で、震災当日は地元秋田で震災を経験しました。当時は同じ東北にいながら震災はどこか他人事のように感じていました。しかし、今回初めて震災後の福島を訪れて、大熊町役場の方のお話を聞いて、まだ震災の影響は続いていると気づきました。また、全国と福島の子どもたちと交流するうちに、子どもたちの成長を感じました。また機会があればぜひ参加したいです。

○高野 健(ノースアジア大学２年)

今回、去年に引き続き、2 回目のふくしま子ども大使に参加させていただきました。去年一緒に活動した福島大学の学生や子どもたちに会えて嬉しかったです。子どもたちも自分のことを覚えていてくれて、とても楽しく活動できました。

震災から 6 年が過ぎ、7 年目に差し掛かろうとしている今、福島や被災地の現状を伝え続ける活動はとても大切だと思います。来年も参加したいです。

【参加者の声】

○森田 和人(福島大学行政政策３年・プロジェクトリーダー)

昨年に引き続き、今年も子ども大使に参加しました。今年は学生リーダーという立場で企画・運営をしました。今回私は、「笑顔があふれる子ども大使に」という思いを自分のテーマにして取り組みました。毎年、プログラムの最後は感動で終了していたと聞き、今年は今までと趣向を変え、笑顔と達成感で終わりたいと考えたからです。そのため、プログラム中は積極的に子どもと関わっていきました。リーダーの立場は半月の学生と違い、主に裏方の仕事が多く、子どもと触れ合う時間は少ないのですが、自分から率先して子どもたちに話しかけることで、自分もそうですが子どもたちもよりプログラムを楽しめると考えたからです。

以上の結果、4 日目のさよならの集いでは例年と違って、感動の涙ではなく笑顔あふれる大使で締めくくることができました。今回アサヒビール株式会社様はじめ、各関係者の皆様のおかげで怪我等も無く、無事第 5 回集まれ!!ふくしま子ども大使を遂行することができました。この場を借りて御礼申し上げます。

【活動写真】

○1 日目　はじめましての集い

○2 日目　語り部のお話

鶴ヶ城観光

○3 日目　五色沼散策

○4 日目　自然体験

○5 日目　集合写真

⑩福島元気発信活動

10-1.「天満音楽祭」

【概要】

天満音楽祭とは、大阪市の天満天神界隈で 2000 年より始まった音楽祭である。これが始まった背景には、アマチュアバンド時代が忘れられないという音楽好きの人たちが集まったということと、阪神淡路大震災後に「音作り・仲間づくり・街づくり」をコンセプトに、地元起業家たちが発案したことに由来する。

この天満音楽祭には、音楽を通じて福島への思いや情報発信、風化防止を目的に、関西大学橋口ゼミの学生と共に参加しており、今回で 5 回目の出演となる。

【活動場所】

OAP タワー2Ｆ （大阪府大阪市北区天満橋）

【活動日時】

10 月 22 日(日)

【活動人数】

福島大学から 2 名

関西大学橋口ゼミ

【活動内容】

天満音楽祭でのステージ発表

【発表曲について】

今年は「天までとどけ」「こころから」、そして(学生団体)福島大学災害ボランティアセンターの自作では 3 曲目となる「僕の住む街」を演奏することになった。

「僕の住む街」は、震災直後と変わらずに大変な面がある一方、福島のいいところ、作者が福島にいたいと思ったわけを率直に曲に表したものを発表することで、県外の方にも福島のことを知ってもらいたいという想い、「難しい問題を抱えている福島」ということだけではなく、普通に暮らしている人ももちろんいて、その幸せを人一倍かみしめていける素晴らしいところでもあるんだということも伝えたいという想い等、様々な感情が重なってできた曲を発表することに重きを置いていた。

【参加者の声】

○坂本 奨(行政政策学類 2 年)

私は今回初めて天満音楽祭に参加しました。当日はあいにくの台風の中多くの人が来て

くれました。

　歌という形で福島の現状、福島に住む人の思い、そして福島で活動する我々の想いを伝えることができたのではないかと思います。ただ言葉だけではなく「歌」で表現する、しかも関西大学の学生と福島大学災害ボランティアセンターの学生が一緒に歌うという点でこの活動はとても特徴的かつ印象に残る活動ではないかと私は思いました。

⑫子供の力支援

12-1.「第 3 回ふくしまネイチャリングキャンプ」

【概要】

私たち(学生団体)福島大学災害ボランティアセンターでは、2011 年度より福島県内の子どもたちを対象としたキャンプを行ってきた。その目的は、震災・原発事故の影響による様々な気持ちに対して、外遊びを通じてリフレッシュすることであり、福島県外で海水浴や観光を楽しんでもらうツアー型キャンプという形をとっていた。しかし、最近では大学生と様々な体験をすることで力強く成長してほしいという保護者の意見も多く聞かれるようになり、また、子どもたち自身、自然とふれ合う機会が少なくなったと感じているという調査結果もある。そこで、震災 5 年目を迎えた 2015 年度より、遠方の「ツアー型」から福島県内の「ネイチャリング型」に活動を展開し、被災地の子ども達が豊かな自然の中でのびのび活動し、かつ主体的に新しいことにチャレンジできるキャンプを開催することにシフトした。

キャンプでは『体験・挑戦・発見』をコンセプトとし、裏磐梯・小野川湖湖畔を中心とした大自然を活かし、子どもたちが普段はできないような自然体験を盛り込んだプログラム構成とした。

【協力】

ホールアース自然学校　福島校

【活動場所】

小野川湖レイクショア野外活動センター

【活動期間】

8 月 19 日(土)~8 月 22 日(水)

【活動人数】

<学生スタッフ>

福島大学 16 名

<参加者>

福島県内の小学 4~6 年生 13 名

・福島大学行政政策学類教授　鈴木典夫

・ホールアース自然学校福島校　和田祐樹さん　杉澤莉子さん

（自然体験活動インストラクター）

・棚木良子さん　（看護師）

【活動内容・行程】

■8 月 18 日（土）
・結団式
・ＢＢＱ
・ナイトハイク

■8 月 19 日（日）
・カヌー
・食材取りゲーム
・料理対決

■8 月 20 日（月）
・トレッキング
・リバーウォーク
・プレートづくり
・キャンプファイアー

■8 月 21 日（火）
・フリーアクティビティ
・解団式

【参加者の声】

〇大泉 孝平（経済経営学類 2 年・キャンプリーダー）

昨年度のキャンプから引き続きの参加でしたが、今年度はキャンプ長という今までとまるで違う形で企画・運営に携わりました。旅行業法の改定に伴い急遽 JTB 東北さんに依頼をしてバスの手配をしていただいたり、広報の遅れを取り返すため友人に頼んで学童クラブにチラシ配りに行ったりなど、何もかもが手探りなうえに初めてのことばかりでメンバーの支えがなければとてもやっていけなかったと思います。参加した子どもの数は 13 名と昨年度より減少したものの、リピーターの子も多く熱量は今年度の方があったのではないかというくらいパワフルな子たちが参加をしてくれました。特に印象的だったのは料理対決のアイディア。1 チームでおかずを 3 品作ろうとなってそれを時間内に実践してのけたときはすごく驚きました。別れの集いでは「楽しかった」、「中学生になっても参加したい」など、子どもたちが口々にキャンプが楽しかったことを伝えてくれて、自分が思い描いたキャンプが達成できてよかったと心から思うと同時に、彼らからのニーズがある以上、来年度以降もよりやりがいや面白みのあるキャンプ運営に関わっていきたいなと思いました

キャンプの 3 泊 4 日のために 3 か月以上にも及ぶ準備をしてきましたが、いざキャンプが始まれば常に臨機応変の判断を迫られなかなかスタッフを思うように動かすことができなかったのが大きな反省です。3 日目、4 日目になってようやくキャンプ長らしく振舞うことができたのかなと思います。後輩にしっかり引き継いで、さらにネイチャリングならではの魅力が詰まったキャンプにしてもらえたらなと願っています。

〇山口 志織（経済経営学類 1 年）

私は人生で初めてキャンプに参加したのが、ふくしまこどもネイチャリングキャンプでした。キャンプというものが具体的にどういうものなのかわからず、また、子どもたちと仲良くしたり、他のキャンプメンバーたちと協力してうまく動いたりできるかとても不安で、このキャンプへの参加は自分の中でとても大きな挑戦でした。しかし、キャンプが始まる

と子どもたちの明るさや元気さに圧倒され、そんな不安もどこかへ行っていました。準備してきたプログラムを１つ１つこなしていくうちに、私たち学生も子どもたちを同じような気持ちでキャンプを思い切り楽しんでいました。私はキャンプに行く前、「なんとか子どもたちに楽しんでもらわなくてはいけない」「つまらないと思われてしまったらどうしよう」などと思っていましたが、私自身が子どもたちに楽しませてもらっている部分が多くありました。また、4 日間一緒に過ごす中で、「この子にはこんな良いところがあるんだ」「この子はこんなことが得意なんだな」と、子どもたちの様々な良いところを見つけることができました。また、自分自身の得意なものや苦手なものなど、自分でも知らなかった自分の一面を見つけることもでき、とても学びの多いキャンプになりました。やはり、新しいことへの挑戦は、子どもたちにも私たちにも色々なことを教えてくれるものなのだなと思いました。

不安な気持ちで迎えたキャンプでしたが、気がつけばあっという間に 4 日間が過ぎていました。天候不良や準備不足によってうまくいかない部分も少しありましたが、それでもみんなが全力で楽しむことができたのは、子どもたちが持つ元気とそれを最大限に引き出してくれる福島の大自然の力のおかげだと思いました。準備段階から本番まで、苦しい場面もありましたが、学校生活を送っていた日々とはかけ離れた別世界にいるような 4 日間を子どもたちと過ごすことができとても良い経験となりました。

【活動写真】

⑬災害に関する他団体・企業との共同活動

13-3.「目に見える支援プロジェクト」の炊き出し活動

【概要】

目に見える支援プロジェクト in 福島のみなさんが震災のあった年から行っている森合仮設住宅、佐原仮設住宅への炊き出し活動に、(学生団体)福島大学災害ボランティアセンターからも参加させていただいている。月に一度の活動で毎月メニューが変わり、例えばクリスマスの時期にはクリスマスにちなんだメニューを作っている。仮設に住むお母さん方もお手伝いに来てくださり、毎月楽しく活動を行っている。

【主催団体】

目に見える支援プロジェクト in 福島

【活動場所】

4 月から 8 月　森合町応急仮設住宅
9 月から 12 月　旧佐原小学校応急仮設住宅

【活動日時・活動内容（メニュー）・活動人数】

4 月 23 日(日)：伊達鶏と彩野菜のトマト煮込み：2 名
5 月 28 日(日)：彩野菜とステーキ：3 名
6 月 25 日(日)：豚しゃぶサラダ：4 名
7 月 17 日(月)：サケとアジの揚げ物～彩野菜の素揚げ添え～：2 名
8 月 27 日(日)：夏野菜たっぷりのカレー：2 名
10 月 22 日(日)：旬野菜の天ぷら：1 名
11 月 19 日(日)：おでん：1 名
12 月 17 日(日)：クリスマスチキン：1 名

※2017 年 12 月 17 日をもって、2011 年 4 月 12 日から 6 年 9 か月に及んだ炊き出し活動が終了。森合・佐原両仮設の住民全員を見送ることができました。

【参加者の声】

〇前田 悠（行政政策学類 1 年）
　この炊き出し活動では、素材をいかした材料の切り方や調理の仕方を教えてもらいながら活動するので、料理の勉強になりました。仮設のみなさんは炊き出しを楽しみにされており、継続して必要な活動だと思いました。参加者と仮設のみなさんの仲がよく、初めての参加でも楽しく活動できました。

【活動写真】

13-4.「味の素」との料理教室

【概要】

富岡町から福島市へ避難して、福島市内の民間借り上げ仮設住宅に住んでいらっしゃる方々が平日の午前 10 時から午後 4 時まで集まることのできる場所が富岡町さくらサロンである。サロンに来られる方々と新緑会や芋煮会など季節のイベントや味の素料理教室を通して交流を行ってきた。

【活動日時、活動人数】

4 月 18 日(火)：1 名
5 月 9 日(火)：1 名
6 月 12 日(月)：2 名
8 月 28 日(月)：1 名
9 月 12 日(火)：2 名
10 月 4 日(水)：2 名
11 月 28 日(土)：2 名
12 月 12 日(火)：3 名
1 月 16 日(火)：2 名
2 月 7 日(水)：2 名

【参加者の声】

〇高坂 夏美(人間発達文化学類 2 年)

私は料理が苦手なので、サロンに訪れる方から「こうやってやるんだよ」と教えてもらいつつ、活動に参加してきました。料理を楽しく作りながら皆さんと交流させてもらって、名前を覚えて頂いたり、「今度お家においで」とお誘いしていただいたりして、本当に嬉しかったです。富岡町が避難解除になって 1 年が経ちますが、皆さんの話題に何度も富岡町の話があがっているのを耳にしてきました。みなさんの環境が変わろうとも、変わらずに寄り添っていくこと、支援の向こう側を忘れずに、これからも活動に参加していきたいです。

【活動写真】

AJINOMOTO GROUP
いっしょに作って、いっしょに食べよう!
ふれあいの

⑲大学内外のボランティア登録者の呼びかけと登録者のフォローアップ

19-2. 災ボラステップアップツアー

【概要】

自分たちが何のためにボランティアをしているのか。どうしてボランティアが必要なのか。ボランティアで交流する人たちはどういう経験をし、どういう思いを持っているのか。こういったことを明確にわかる人は少なく、また福島県の中でも現状や課題が複雑化している。

今回は避難指示が解除された地域で活躍している方々からお話を聞くことを主とした。浪江町、飯舘村の現状を知ることで、震災はまだ終わっていないということを実感しつつも、熱量を持って懸命に闘っている方々からお話を聞くことで自分に今後何をすべきなのか、何ができるのかを考えるきっかけづくりになることをねらいとした。そしてそれをこれからの活動のモチベーションの向上を一人一人の活動のステップアップにつなげて欲しいという期待を込めて本企画を行った。

【協力】

・浪江町まちづくり整備課計画係　　菅野孝明様
・飯舘村村長　　菅野典雄様
・社会福祉法人いいたて福祉会特別養護老人ホーム「いいたて福祉ホーム」施設長
　　三瓶政美様

【活動日時】

5 月 13 日(土)

【活動人数】

(学生団体)福島大学災害ボランティアセンター新規登録者の中心とした福島大学生：20 人

【活動内容】

浪江町の被災地の見学、飯舘村菅野村長との懇談会、三瓶施設長との懇談会、飯舘村役場周辺の見学

【参加者の声】

○前田 悠(行政政策学類 1 年)

私は富山県出身で、東日本大震災が起きた当時は小学校 6 年生でした。被災地の状況は TV や新聞など、間接的でしか知ることができず、この大きな出来事をどこか受け止められずにいました。

今回のステップアップツアーは、被災地を自分の目で見て被災された方々のお話を伺うと

いう、私にとって初めてで大変貴重な経験となりました。私がこのツアーの中で一番印象に残っていることは、被災された方々がとてもたくましく、復興に向かって一生懸命頑張っておられる様子です。自宅の片付けに来られていたり、マルシェを開いていたり、コンパクトシティをめざしていたり、復興のための様々な努力や工夫がみられました。

今回のステップアップツアーを通して、本当に多くのことを学び、感じることができました。私には当時の様子を想像することしかできないけれど、この貴重な経験を生かして、これからの活動も精一杯励んでいきます。このツアーを行うに当たってたくさんの協力をしてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。

【活動写真】

19-4. 5 団体ウィーク

【概要】

「Key's」、「スタ☆ふく」、「リプラボ」、「福大 vote プロジェクト」の学生団体と連携して 5 団体ウィークとして活動することを通して、学生団体災害ボランティアセンターの活動紹介をしたり情報を発信し、多くの人に興味を持ってもらい、災ボラへの登録者や活動参加者を増やすことが目的である。

【活動場所】

福島大学 S 棟前広場(雨天時 S 棟 学生課前)

【活動日時】

10 月 3 日(火)～10 月 6 日(金)

【活動内容】

① 活動紹介
　災ボラとして取り組んでいる活動をパネルに展示したもの
② ポケットティシュ作成、配布
③ 今後の活動予定カレンダー
④ わたあめ、配布
⑤ フリーマーケット
⑥ 災ボラ登録、災ボラ保険新規加入手続き
⑦ PR 動画
⑧ 福島地図マップ
　福島県の地図を書いてそれぞれの団体がどこでどういった活動をしているのか書いてパネルに掲示する
⑨ タイベック防護服試着
　原発に入る時に着る防護服の試着

【参加者の声】

○斉藤 亮太(経済経営学類 2 年)

一昨年前まで行われていた「災ボラウィーク」、去年行われた「ボランティアウィーク」と異なり、「５団体ウィーク」は、福島大学にある５つの学生団体で連携し、規模を拡大して実施しました。それぞれの団体が普段どのように活動しているのかパネルを使って紹介し、災ボラなどのことを知らない学生に対し、少しでも前向きな情報を伝えることができたと思います。また、仮設や団地の住民の方からお譲りして頂いた物で取り組んだフリーマーケットは、大変好評で、多くの学生に足を運んでいただきました。

準備期間から通して、他団体と協力して取り組む難しさを痛感しましたが、この機会を通して、5 団体がより密に関わっていければと思います。

【活動写真】

⑳広報活動

20-3. 学内災ボラ掲示コーナーの充実

【更新日時】

2017年4月、2017年6月、2017年8月、2018年1月、2018年3月

2. これまでの活動一覧

3. メディア掲載履歴

〇新聞

・毎日新聞　2017 年 11 月 4 日(土)　地方版　前橋芋煮会

・福島民友　2017 年 11 月 20 日(木)　雄城台高校修学旅行

・福島民報　2018 年 3 月 25 日(日)　いるだけ支援

〇ラジオ

・ラジオ福島（ＴＢＳ系ラジオ全国放送）2017 年 8 月 25 日「ネットワークトゥデイ」

・NHK ラジオ　2017 年 3 月 13 日(火)　鈴木典夫先生

〇雑誌

・福島県広報誌　2017 年 6 月号　学生 DASH 村特集

4. 寄付金一覧

日付	金額（円）	ご芳名
5 月 11 日	100,000	白寿会様　寄付金
5 月 16 日	5,000	不用品取扱所様　寄付金
5 月 23 日	32,400	NPO 法人　ふれあい広場ポーポーの木様　寄付金
6 月 2 日	4,000	不用品取扱所様　寄付金
6 月 22 日	50,000	ソロプチミスト様　寄付金
8 月 22 日	10,000	匿名　寄付金
9 月 14 日	8,000	不用品取扱所様　寄付金
10 月 2 日	9,200	匿名　寄付金
11 月 3 日	27,000	岡山県立津山東高等学校
11 月 8 日	10,000	北幹線第一仮設住宅　寄付金
11 月 27 日	20,000	前橋芋煮会　寄付金
11 月 28 日	17,000	北幹線第一仮設住宅　寄付金
1 月 31 日	10,000	不用品取扱所様　寄付金
3 月 1 日	20,000	宮野敏行様　寄付金
3 月 28 日	5,000	匿名　寄付金
3 月 28 日	30,000	シャローム様　寄付金

おわりに

ゼネラルマネージャー　武田 若菜
（行政政策学類３年）

今年で、「東日本大震災」から丸６年が経過し、７年目を迎えました。昨年の熊本地震に引き続き、今年は大分県や福岡県を中心に九州北部豪雨が発生した年でもあります。いつどこでどんな災害が起こるのか分からない。そう強く実感した出来事でした。

わたしは福島で震災を経験し、高校生の時に抱いた「将来は福島の復興に携わりたい」との強い志から福島大学に入学、そして現在、災害ボランティアセンターの一員として活動し３年目を迎えますが、東日本大震災で経験したことをあらゆる場面で生かすことができないかと日々考えていました。そんな中で、九州北部豪雨の被害を受けた地域の高校生の修学旅行の受け入れ事業を通して、福島の現状や被災現場のリアルな声、これからの災害に備えての教訓などを発信することができ、少しではありますが福島の知恵として貢献できたのではないかと感じております。

そしてここ福島の現状としては、浪江町、富岡町、飯舘村の「帰還困難区域」を除いた地域及び川俣町の山木屋地区の避難指示が、2017 年 3 月 31 日および 4 月 1 日に解除されたことを受け、住まい方、自宅に戻る人々、復興公営住宅に住み替えた人々、仮設住宅に残る人、と多岐にわたるライフスタイルが確立し、「多様なニーズ対応」が存在する新たなステージに進出しました。特に、仮設住宅から復興公営住宅や新しい住宅への移り替えが顕著に進んだことを受け、住民同士の交友関係のつなぎ役になることや、地元住民との調和を目的とした活動の提案が今年度の課題の一つでした。改めて、これまで団体として「連続」的に地味に強くおこなってきた活動をより一層大切に紡いでいくことの必要性を強く実感した１年、さらに、これまでに引き続く課題と復興に向けた兆しが垣間見える１年だったように感じます。

団体として「連続」的におこなってきた活動に、昨年度から活動の特徴として位置づけてきた「人付き合い」ボランティアがあげられます。「福茶会」と称した足湯活動とお料理や昔遊びを含有させバリエーションを広げたサロン活動、健康維持や生活のめりはり付けだけではなく、住民同士の交流を促進する場を提供する健康体操などの活動を通して、それぞれの生活や人々の暮らしぶりの中に潜在するニーズに対応し人と人を「つないでいく」という役割を果たしてきました。また、今年度も引き続き 2 か所で実施した「いるだけ支援」では、やはり住み替えにより住民が少なくなっていく中で、残る住民の方への見守り活動を重点的に行ない、より積極的な井戸端訪問等の活動を進めると同時に、仮設住宅から引っ越された方との継続的なお付き合いをすることで関係を維持し、途切れることのない支援の重要性を改めて実感してまいりました。これまで、2017 年から 2 年 10 か月、「いるだけ支援」を行ってきましたが、平成 30 年 4 月には全世帯が新たな拠点へと引っ越しを

し、それぞれの生活がスタートします。最後の世帯まで看取り、そして新拠点へ移った後も、「いるだけ支援」の事業とは違う形にはなりますが、「災害ボランティアセンター」として引き続き、お付き合いさせていただこうと思っております。

さらに、復興公営住宅には昨年から本格的に携わるようになりましたが、今年度は季節の活動や井戸端訪問にバリエーションをつけ、より具現化した活動を頻繁に行うことができました。今後も外部団体や自治体との連携も取りながら交流促進活動に力を入れ、積極的にアプローチしていきます。帰還地域である田村市都路地区を拠点とした交流事業「学生 DASH 村」においても、今年度は白菜と大根を育て、無事収穫まで至ることができました。この過程においては、わたしたち学生だけではできないことがほとんどですが、地元住民の方の知恵や技、県外学生のお手伝いなど、多くの方の力をお借りしながら活動することができていることに感謝しながら、学生と地域住民、住民同士の大きなコミュニティを取り巻く、団体の主たる活動となるよう、発展させていこうと考えています。

そして、先にも述べたように、今年度新規事業である「次世代育成若者サポート事業」を導入し、団体として初めて大分県の雄城台高校の修学旅行の受け入れをおこないました。大分県は昨年の熊本地震にたて続き今年発生した九州北部豪雨に見舞われた地域の一つであり、災害・防災に関心の高まっている中で、東日本大震災から 6 年半を迎えた「福島の今」を知ってもらうことで、今後自分たちの災害に関する知識に役立ててもらいたいという先生方の要望を受け入れ実現する運びとなったものです。来年度以降も、若者たちの育成に貢献し福島の歴史を後世に継承していくことにも力を注いでいきたいと感じております。さらに、避難指示が解除された飯舘村にも拠点を広げ、今年度は道の駅開設のお手伝いなどをさせていただきました。今後さらにニーズの展開が予想されますので、来年度は飯舘村役場や教育委員会、社会福祉協議会等の福祉施設などと協力をしながら活動をしていければと思っています。

今後の活動について、震災から 8 年目を迎えるにあたり今まで行ってきた「地道」な基盤づくりがより一層生かされてくる時期となります。「いるだけ支援」の活動を行ってきた 2 年 10 か月の間、そして、普段の活動において、みなさんとの関わり合いの中で築くことができた関係性や、新たなる価値観、学びを生かしながら、これまで刻み込まれてきた歴史を忘れることなく、今後も福島に常に寄り添い、復興に向かって一歩ずつ共に歩んでいきます。

最後になりますが、私たちと一緒に活動、または私たちに対しご支援を頂きました各大学大学生、大学関係者の皆様、各種団体様、活動の広報をあらゆる面でしてくださったメディアの皆様、災ボラの活動協力に加え、報告書作成にあたりご協力いただきました皆様、この場をお借りして、心から御礼申し上げます。来年度もこれまでと変わらず、一人ひとりに寄り添った活動を展開していきたいと思います。今後とも、(学生団体)災害ボランティアセンターをよろしくお願い致します。